

氏名	辻 真弘
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6995 号
学位授与の日付	2024 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	High platelet reactivity is a predictor of left ventricular remodelling in patients with acute myocardial infarction (急性心筋梗塞患者における血小板反応性の亢進が左室リモデリングに与える影響の検討)
論文審査委員	教授 笠原真悟 教授 成瀬恵治 准教授 小谷恭弘

学位論文内容の要旨

目的: 急性心筋梗塞 (AMI) は左室リモデリング (LVR) を伴い、心不全の原因となり得る。本研究では、ST 上昇型 (STEMI) と非 ST 上昇型 (NSTEMI) を含む AMI 患者において、経皮的冠動脈インターベンション (PCI) 直後の血小板反応性が LVR に及ぼす影響を検討した。

方法と結果: PCI を受けた AMI 患者 182 例 (STEMI 患者 107 例、NSTEMI 患者 75 例) を対象とした。患者には PCI 前にアスピリン+プラスグレルのローディング用量を投与し、PCI 直後に VerifyNow P2Y12 アッセイを用いて血小板反応性を評価した。心エコー検査は退院前と慢性期 (退院後 8±3 ヶ月) に行った。慢性期の LVR は 34 例 (18.7%) で認められ、血小板反応性は LVR が認められた患者で有意に高値であった。(259.6±61.5 および 213.1±74.8 P2Y12 reaction units[PRU]、P = 0.001)。多変量ロジスティック解析では、血小板反応性の亢進は LVR の独立した予測因子であった (オッズ比、4.13; 95%信頼区間、1.85-9.79)。

結論: PCI 直後に測定された血小板反応性の亢進は慢性期の AMI 患者における LVR の予測因子である。

論文審査結果の要旨

この研究では、経皮的冠動脈インターベンション (PCI) 直後の血小板反応性が左室リモデリング (LVR) に及ぼす影響について検討した。LVR は心不全の原因となる生体反応の一つとして認められるものである。PCI を受けた急性心筋梗塞の患者 184 名に対し、血小板反応性を評価した。多くのパラメーターの中で、血小板反応性の亢進は慢性期 (退院後 8±3 ヶ月) における LVR の独立した予測因子であることが示された。

予備審査における疑問点、問題点: 今回の血小板反応性が高いという現象は、炎症反応の程度を反映しているのか、心筋梗塞での血管狭窄の程度を反映しているのかが明らかになっていないために、血小板反応性の意義について議論がなされた。また、今回の研究では、LVR 症例は明らかに重症心不全となっていないために、臨床での治療目標を示唆するまでにはなっていない点についても議論がなされた。しかしながら、明らかに血小板反応性の上昇は LVR の単独の危険因子であることは事実であり重要な結果が得られたと言えた。その上で、この血小板反応性の上昇の意義を明らかにする事を含めて、更なる研究の成果を期待したいと考えられた。したがって、この結果は重要な研究成果と考えられ、この研究は価値ある業績と認められた。

よって、本研究は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。